5　進捗状況

基本目標1　人づくり･基盤整備

①環境教育・環境学習

環境保全活動を促進するためには、市民一人ひとりが取り組むことの必要性を理解するとともに、必要な情報を入手できる環境を整備する必要があります。今後も子どもへの環境教育や市民への情報提供、学習機会の提供などを継続的に実施します。

②環境コミュニケーション、活動の支援

環境保全活動を実施しやすくするため、参加機会の充実、活動資金やノウハウ提供など、必要な支援を実施していきます。

環境テーマ	指　標	基準値 平成30年度	目指す方向	進捗状況 令和２年度	令和３年度	令和４年度	達成
①環境教育・環境学習	小中学生の環境にやさしい生活の達成率（エコライフチェックシート）	69.4 %	↗	69.2 %	69.1 %	71.9%	☀
	環境関連講座等参加人数（市民環境講座、リサイクル体験教室参加者数などの合計）	5,071 人	↗	1,018 人	1,207 人	1,399 人	☂
②環境コミュニケーション、活動の支援	エコポイント制度年間利用者数	522 人	↗	301 人	437 人	394 人	☂
	アダプトプログラム年間活動者数	16,829 人	↗	14,493 人	12,548 人	15,186 人	☂

※指標の基準値から進捗状況の実績値への数値の変化を以下のように示しています。

☀　基準値から実績値への変化が目指す方向と一致している指標

☘　基準値から実績値への変化がない指標

☂　基準値から実績値への変化が目指す方向と一致していない指標

―　市民意識調査が実施されていないことにより、達成状況が判定できないもの

環境フェア等イベントの実施　　①環境教育・環境学習

【　施策説明　】

こまき環境市民会議への委託事業として、イベントの実施を通じ、環境について学習する機会を提供する。

●取り組み・実績

「いきいきこまき：環境フェア」は規模を縮小し、11/20（日）に中央図書館イベントスペース、にぎわい広場にて開催した。

マイバッグ作りや丸太切りなどの体験学習、生きもののパネル展示等を行い環境学習の機会を提供した。参加者約 300 名

（生きものの展示）

アダプトプログラムの活動促進　　②環境コミュニケーション、活動の支援

【　施策説明　】

市内の道路や河川等を市民等が里親となって愛情と責任をもって定期的に清掃し、環境美化に対する意識の高揚を図り、市民と市の協働による環境美化を推進する。

●取り組み・実績

市民、事業者に対し、参加を呼びかけるとともに広報やＨＰにより参加をよびかけた。

登録団体数 46 団体・個人 7 人、年間活動者数 15,186 人

その他の取り組み

テーマ	事　業	内　容
①環境教育・環境学習	学校版EMSの推進	学校における環境改善活動の一助として学校版EMSを充実し、環境によい学校づくりに取り組む意識の啓発を行う。 ➢ 令和 4 年度 8 校の現地調査を実施
	教育職員の研修等支援	夏季教職員研修において環境学習の推進を図る研修を実施し、教員の資質向上を図る。 ➢ 5/23 環境教育研修を実施 ➢ 8/1 にオンラインで研修を実施
	食を通じた環境教育	6 月の食育月間に併せて、食育に関する普及啓発を実施する。 ➢ 毎月 19 日を食育の日とし、6 月と 12 月に食品提供を受け（6 月 33 名、12 月 41 名）、非接触型のドライブスルー形式でフードドライブ事業を実施
		学校給食を通して市内で作られている農作物に関心が持てるように、献立表の工夫や応募献立を実施することで自然の恵みや栄養価の摂取、食物の生産・流通・消費について理解を深める。 ➢ 6 月の「愛知を食べる学校給食の日」、11 月の「愛知を食べる学校給食週間」を献立表及びポスターで掲載し、県内産と小牧市産の食材使用を周知 ➢ 毎月の献立表に応募献立による献立名等を掲載 ➢ 全国学校給食週間（1 月）に、県内産と小牧市産の食材を献立表及びポスターに掲載し、周知

テーマ	事　業	内　容
①環境教育・環境学習	環境関連講座の充実	環境関連の市民講座や出前講座、体験教室等を企画・提供することにより、環境啓発を図る。 ➢ 子どもが楽しく環境について学ぶことができるよう、模型の電気自動車をつくり、走行させる親子向けの環境講座を開催「電気自動車の模型をつくって走らせてみよう」(8/6　59 人参加) ➢ プラザハウス常設体験教室の実施(紙すき　5 回 20 人参加、サンドブラスト 25 回 76 人参加、とんぼ玉作り 9 回 27 人参加) ➢ プラザハウス特別体験教室の実施(91 回 518 人参加) ➢ 廃食用油せっけん作りの実施(15 回 90 人参加)
	体験活動の場や機会の提供	五感を使って自然と触れ合い、子ども達に自然体験活動の場と機会を提供し、身近にある自然に興味が持てるようにする。 ➢ 自然観察学習講座「大山川の自然観察」を開催(9/4　13 家族参加) ➢ 身近な里山の自然観察を 1 回開催(11/6　11 家族参加) ➢ 秋のハイキングを1回開催(11/26　4 人参加)
	環境教育の推進	市内各保育園で園児を対象に、ごみの分別や地球温暖化など、環境に心がけた生活を学び、環境保全の大切さを伝える。 ➢ 日々の保育の中で、ごみの分別方法や節電、節水の仕方などを説明し、園児と一緒に実践
②環境コミュニケーション、活動の支援	市民活動への助成	地域の課題解決に取り組む市民活動団体への団体助成や、その団体が行う新たな事業への助成を行う。 ➢ 環境保全分野においては、1団体助成(小牧市市民活動助成金　事業助成「つなげる部門」)
	環境保全活動へのエコポイント付与	毎月 1 回(8 月を除く)市内 3 小学校(小牧・光ヶ丘・小木)で廃食用油の回収を行い、持参者にエコポイントを発行し、児童への環境保全の意識の向上を図る。 ➢ 6,363pt 発行(延べ 394 人参加、廃食用油 636.3ℓ回収)
	環境マネジメントシステムの導入支援	ISO を取得する市内の中小企業に対し、審査登録料の一部を補助することにより、市内の小中企業の認証取得を推進する。(令和 4 年度末で終了) ➢ 企業支援ガイドブックの作成、市 HP で補助制度を周知
	活動団体の支援	市民活動団体設立を目指す方や既存の活動団体への相談支援、連携のサポートを行う。 ➢ こまき市民交流テラス「ワクティブこまき」に登録している団体のうち環境保全に取り組む団体 23(R5.3.31 現在) ➢ SDGs をテーマにした市民活動祭を開催(9/17 出展団体 68、協賛企業 17、来場者約　1,800 名、ボランティア　51 名)

評　価

新型コロナウイルス感染対策を行いながら、変化する情勢にあわせて多くのイベントや講座を開催した。with コロナから after コロナへ変容する中で、環境意識の向上に向けて子どもへの環境教育や市民への情報提供、学習機会の提供について、積極的に実施する必要がある。